

重松伸司

『海のアルメニア商人
アジア離散交易の歴史』

集英社新書,2023,203

ページ

220781075

梅本 昇波

海のアルメニア商人

アジア離散交易の歴史

重松伸司

Shigematsu Shinji



集英社新書

目的

1. アルメニア人の
ジェノサイドからの
逃走



2. 「逃走という生き
方」の意識醸成



3. 「積極的な意味での
逃走」方策諦念は
衰退危機



序章

1. アルメニアという民族と社会

A) 大国の干渉、侵略、解散の絶え間ない政治変動に翻弄

i) 大国が誘因の緊張と対立の紛争の緩急地帯

ローマとパルティア、ササン朝とビザンツ、

神聖ローマとイルハン、サファヴィー朝とオスマン帝国、

オスマン帝国とロシア、ロシアと西欧列強諸国

ii) 実質的な独立

紀元前400～300年 自治と独立 実現

紀元前80年頃には最大版図を獲得

⇒数世紀も持続不可能で短命で亡滅

⇒独立:1991年 共和国を創建

B) アルメニア人の動向

1) 南シナ、東シナ、中国と日本の順

2) 日本：幕末期から維新时期にかけて
到来

⇒ 横浜、神戸、長崎、大阪、門司、
舞子、塩屋、有馬に史料存在

A) アルメニア共和国の概要

- i) 黒海とカスピ海の狭間でアゼルバイジャンの隣国
- ii) 近代まで農業が主要産業

B) アルメニア商人の特徴

i) 農耕に不適切な土地居住の民は
交易へ

ii) 非凡な商人気質

ア) 徒歩で中国の国境からギニア
海岸のコルソ岬まで交易

イ) 祖先からの一貫した商法

C) 19世紀に内陸から海洋交易へ

i) 火薬帝国の国際商都ジュルファの陥落

オスマン帝国とサファヴィー朝による争奪戦

⇒ アッバース1世によってアルメニア人

約27.5万人の強制移住

⇒ 移住後、1604年から1605年にかけて町は

焼働、廃墟化

ii) 新ジュルファの建設

1619年:アルメニア人はイスファハン近郊に居住

iii) 長距離巡回交易の再開

西方、北方、東方の3ルートで交易

交換媒体:銀

イラン:絹、ロシア:毛皮、カスピ海:キャビアと魚、

インド:香辛料と貴金属

D) アルメニア人が弱者としての存在価値

i) ウサギのような鋭い目と長い耳と迅速なフットワーク

専制的な支配者よりも多彩な能力

言語能力、情報収集能力、商才、交渉力、ネットワーク

⇒理想的な権力の奉仕人

第2章

陸路から航海へ外洋進出

i) 17世紀 大陸の混沌

原因:近隣国の覇権紛争

⇒北方ルートへの断絶

ii) 東ルート(インド)は存続

ア) アルメニア商人の定住

イ) 各地特産品を移動先で売買



iii) 外洋進出の本格化

時期:1622年

動機:ホルムズを奪還

目的地:インドのスーラト

iv) 交易の拡大

インドからマニラ

絹やシナモン→スペイン銀

第3章

- A) イギリス東インド会社との
 - i) 1688年協約
 - ア) ザクロ石の独占権利の無償化
 - イ) 40人余が要塞の住民
 - ウ) 信仰の自由と教会の建設
 - ii) イギリスの思惑
 - ア) アジアへの交易の拡大
 - イ) 内陸から海上交易への強制

B) スーラトからの脱却

i) 新たな定住地

マドラス、カルカッタ、シンガポール

ii) 交易拠点と結節点

マドラス

→インド、マレー半島

カルカッタ、シンガポール

→インド、中国、日本、ヨーロッパ

第4章

A) 離散アルメニア人の特徴

i) 多子で男系的・家父長的教育方針

名門校で学び、弁護士や実業家で活躍

⇒ イギリスの影響? アジア的な家族主義?

第5章

A) アジアのカルテル結成

i) 海運同盟

ア) 12の国際的な同盟

運賃・航路・共同繋船を
保護

第6章

A) アルメニア商船の日本来航

ア) アルメニア号の来航歴

神戸に5回来航

長崎にBI所有船とアップカー
商船28回程度来航

第7章

A) アルメニア商人の居留地交易

i) アルメニア人のアプカー

横浜外国人居留地の商会名簿に掲載

ii) 交易品

輸入: 雑貨類の帽子、アラビアゴム、漆

輸出: 陶器、漆器、紙細工、雑貨

第8章

A) アルメニア人居留形跡

i) 南アジアと東南アジア

アルメニア通り、教会通り

ii) カルカッタ

ア) アルメニアン岸壁

繁華街でガンジス川支流

イ) アルメニア教会

扉の先に静寂の石(墓)の世界

iii) アルメニア教会の共通点

ア) 司祭は非常任

イ) 目的:有力商人の家族の守護

iv) アルメニア人のホテル経営

1860~1910年代にアジア各地で創業

目的:アルメニア人の救済、富裕層の獲得

終章

- A) 近代における離散アルメニア人
 - i) 安住の状況
 - ア) 抹消意識の無自覚
 - イ) 1688年協約
 - イギリス人の地位獲得
 - ii) 移民エリート
 - 居留先の社会、経済、文化に影響

iii) 分散で生存

従属性ネットワークの無形性

iv) 現実範囲での関係

他面で非合理的な強靱さの排除

v) 宗教の多様性

カトリックへの改宗

⇒ 便宜的、実践的、融通無碍

結論

1. 逃走は逃亡や敗北とは相違

2. 離散でも新たなアイデンティティーの兆候

3. 我々の生き方

→コスモポリタン=積極的な意味での逃走(生き方)の模索